

もしもあなたの愛する人が“脳死”と言われたら？

法の範囲内で“脳死を人の死”とする改定臓器移植法が成立しました。専門家の意見が分かれる子どもの脳死判定、貧弱な小児救急医療体制など、多くの問題をはらんでいるにもかかわらず、新たな臓器移植法は動き出します。この問題に対し、医療・報道・家族の視点から意見を投げ、子どもを取り巻く脳死・臓器移植の現状とその問題について話し合います。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

新臓器移植法を問う シンポジウム

—小児の救命と脳死と移植—

2010 **1**日**31**日（日） 13時30分～16時30分（13時開場）
港勤労福祉会館（1階 第1会議室）

〈パネルディスカッション〉

パネラー 植田 育也

静岡県立こども病院小児集中治療センター長 米國小児科認定医
米國小児集中治療専門医 日本集中治療医学会専門医

「小児の救命救急・集中治療の現状と課題」

近藤 孝

南労会・紀和病院長 日本脳神経外科学会専門医 日本救急医学会専門医

「脳死判定の非科学性」

岩澤 倫彦

「ニュースジャパン／時代のカルテ」専任ディレクター 調査報道ノーザンライツ・代表

「救急と移植の医療現場を取材して」

永瀬 哲也

脳死に近い状態と診断された子どもの父親

「人工呼吸器をつけた娘と暮らして思うこと」

司会 小松 美彦

東京海洋大学教授

資料代：1000円

主催：臓器移植法を問い直す市民ネットワーク

電話：080-6532-0916

E-mail：abdncnet@gmail.com URL：http://pub.ne.jp/abdnet/

〈交通〉

JR山手線・京浜東北線田町駅西口
（徒歩5分）
地下鉄浅草線・三田線三田駅
（徒歩1分）
駐車場なし



〈港勤労福祉会館〉
〒108-0014
東京都港区芝5-18-2
電話：03-3455-6381

〈プログラム〉

13時	開場
13時30分～	主催者挨拶
13時40分～15時	パネラーからの問題提起
15時～15時15分	休憩
15時15分～16時30分	パネルディスカッション

「臓器移植法を問い直す市民ネットワーク」からひとこと

2009年7月、移植法の枠内とはいえ「脳死は人の死」と規定し、0歳から臓器摘出を可能とする「A案」が成立しました。私たちは、この法律を問い直すことを目的に、同年9月に発足した市民団体の連絡会です。

長寿大国日本の1歳～4歳までの幼児死亡率は、実は主要先進国内で「最悪」であり、これは小児救命救急体制の貧弱さをあらわしています。この状況について、子どもの臓器提供者を増やすという目的だけが独り歩きし、十分な救命医療が行われない可能性があるという不安の声があがっています。また厚労省は、6歳未満の小児脳死判定基準を作成していますが、長期脳死生存例が数多く報告され、小児科専門医の間でも「子どもの脳死判定は可能か？」という問に対する意見は様々です。このような現状について、議論もされぬまま、「脳死判定基準をクリアすれば”死”」と決めてしまうことは、私たちの命の軽視につながります。

これら危急の問題を集約させたテーマである「小児の救命と脳死と移植」を中心に、みなさんが脳死・臓器移植について考える機会を持っていただけるよう願っております。

厚生労働省へ申し入れを行いました。(2009年12月22日)

現在、厚労省は小児脳死判定基準作成のための研究班や作業班を立ち上げ、来年7月17日の改定臓器移植法の施行に向けて作業を進めています。しかし、脳死状態での長期生存例や「小児の脳死判定」方法の問題点などの事実の確認と検証が、いまだに不十分であるため、以下の要望と質問状を提出しました。(詳細に関しましては、当ネットワークブログ <http://pub.ne.jp/abdnet/> をご覧ください。)

【要望】

- I 長期脳死生存例の実態調査と報告について
 - II 83例の脳死・臓器移植に関する検証結果の公表について
 - III 第三者機関による検証会議について
- (1)臓器移植を検証する第三者機関の存続
(2)小児の脳死判定にかかわる医師や小児虐待問題の専門家、弁護士、生命倫理の研究者、ドナー側や移植に慎重な患者市民団体も加えた公正な人選
(3)脳死判定と臓器提供を行った病院の医師以外のメンバーによる客観的な検証が保証される体制づくり

【質問】

- IV 改定法で「脳死は人の死」としたことについて
 - V 脳死判定に係る事項に関して
- (1)脳死判定後の長期間生存例について
(2)脳死判定の不確実性について
(3)その他、判定基準を否定する例について
(4)無呼吸テストについて
(5)中枢神経抑制剤の影響下にある患者の脳死判定について- VI 臓器移植以外の場面で「脳死＝人の死」ではないことの担保について
- VII 被虐待児の見極めについて
- VIII 脳死を経由した心停止後の臓器提供について

〈呼びかけ団体(*)・賛同団体〉

(あいうえお順、2009年11月18日時点)
医療被害・薬害をなくすための厚生省交渉団
医療労働運動研究会

- * 医療を考える会
関東「障害者」解放委員会
関西「障害者」解放委員会
現代医療を考える会
- * 宗教法人・大本
- * 人工呼吸器をつけた子の親の会
(バクバクの会)

- 全国肝臓病患者連合会
- * 全国交通事故遺族の会
全国精神病者集団
全国遷延性意識障害者・家族の会
東京女子医大被害者連絡会
- * 日本消費者連盟
日本の医療の流れを変える会
- * 「脳死」臓器移植に反対する関西市民の会
- * 脳死・臓器移植に反対する市民会議
反優生思想の会
保安処分に反対する有志連絡会

